

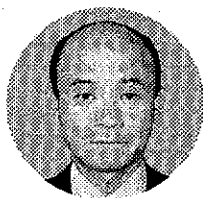


15

三陽機器

メモ 資本金6600万円。
従業員数約100人。昨年度
の売上高は27億5000万円。
うちフロントローダーは約
18億円。00年6月には、国
際標準化機構が定めた品質
保証規格ISO9001認証を
取得した。

国内のトラクターが販
売され始めた66年、農機
具メーカーの元社員ら
が、整地や牧草の運搬な
ら



寺前公平社長

トラクターの前面に取
り付けて荷役作業などに
使うフロントローダー
の分野で、約70%の国内
トップシェアを握ってい
るのが三陽機器。里庄町
新庄、寺前公平社長(46)
だ。トラクターメーカ
ーやローダーの規模、用
途に応じて着脱可能な約
30種類を開発し、会社設
立以来トップの座を守り
続けている。

用途に応じ、着脱可能ローダー開発

安価で品質、性能評価 国内シェア70%

式のローダーの開発に成
功、一気に業績を伸ばし
た。

76年ごろには、農業の
機械化も追い風になっ
た。国内のトラクター生
産台数はピークの年間21
万台に達し、同社も約1
万台のローダーを生産。

また、同社は設立当初か
ら、企画設計、営業のみ
を行うにとどまり、製造
分野を外部委託するシス
テムを取った。このため
設備負担などの面でコス
トがかからないことに加
え、品質、性能面でも内
外から評価され、他社に
大きく水をあけた。

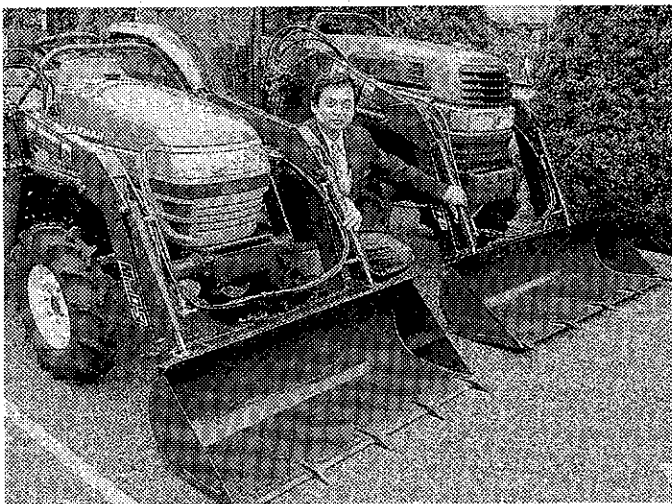
とはいえ、農業人口の
減少は同社にとって難問
だ。70年代後半からは、
トラクターの販売台数も
低下し、業績も伸び悩ん
だ。「一時はローダー以
外の製品で活路を見いだ
そうとしたが、何度も失
敗を重ねた」と寺前社長
は多くを語らないが、原
点に戻り、徹底的に全国
の農家に足を運び生の声
を聞いた。その結果、こ
れまで使用を敬遠してい
た水田農家の多くが、高

齢化でローダーの導入
を念願としていること
に着目。水田の整地用
として、小型で安価なロ
ーダーを市場に送り込ん
だところ、ヒット商品と
なった。

近年は、シェアこそ庄
倒的だが、ローダーの生
産台数はピーク時の7割
にも満たない。そこで環
境をテーマにした油圧機
器開発にも積極的に乗り
出している。00年に開発

した樹木破砕機は、環境
汚染の原因となる野焼き
に対する規制が強化さ
れ、ニーズも高まった。
また01年には、もみ殻を
たい肥として再利用する
ために、もみ殻すりつ
ぶす機械も開発。寺前社
長は「油圧機器はあらゆる
産業に利用できる。今
後も技術を駆使して、積
極的に新分野に挑戦した
い」と意気込む。

【宮崎泰宏】



トラクターの前面に装着されたフロントローダー